

## ■フランス：エネルギー大手 Engie、今後は石炭火力発電に投資しない方針

ロワイヤル・エネルギー・環境相は 2015 年 10 月 14 日にテレビに出演し、エネルギー大手の Engie（旧 GDF スエズ）が今後は石炭火力発電所の建設を止めると発表した。具体的にはトルコのアダ・ヤムルタルク火力発電所計画（132 万 kW）が中止されることになる。同社は 6 月に南アのタバメットゥシ計画（60 万 kW）を中止している。いずれも環境団体「地球の友（Friends of Earth）」が激しく非難してきたプロジェクトである。Engie の大株主（33%）であるフランス政府は既に石炭への支援を行わないことを決定していると大臣は付言した。しかし、同社は石炭火力発電から完全に撤退する訳ではなく、確約がなされているモンゴルとブラジルの 2 つのプロジェクトは今後も続けることにしている。この他、ブラジル（32.4 万 kW）、チリ（33.8 万 kW）、インド（63.8 万 kW）、モロッコ（138.6 万 kW）の既着工設備も今回の方針の対象外である。同社はドイツ、オランダ、イタリア、英国など欧州や世界各国に 30 の石炭火力設備を所有し、2014 年は発電量全体の約 20%（560 億 kWh）を賄っている。